

効果的な秋まき小麦の赤さび病防除

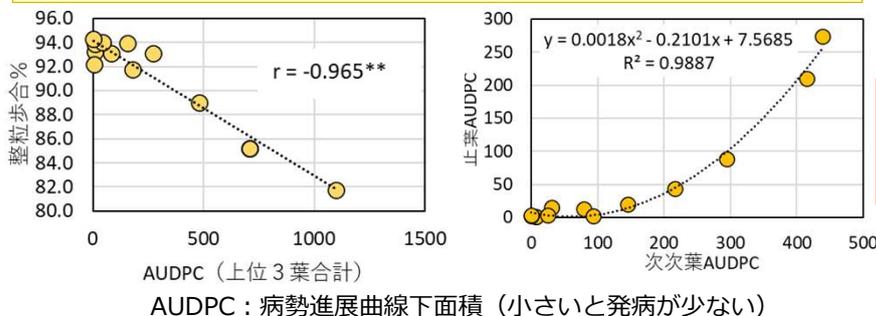
概要 Abstract

赤さび病多発地域に対応した秋まき小麦の赤さび病の防除技術を明らかにしました。

成果 Results

「きたほなみ」の上位3葉の発病と収量には負の相関関係がある（左図）

下位葉の発病は上位葉の発病を増やす（右図）



「きたほなみ」では上位3葉の発病は収量に影響すること、次次葉の発病は上位葉の発病に影響することから、上位3葉を赤さび病から守ることが必要

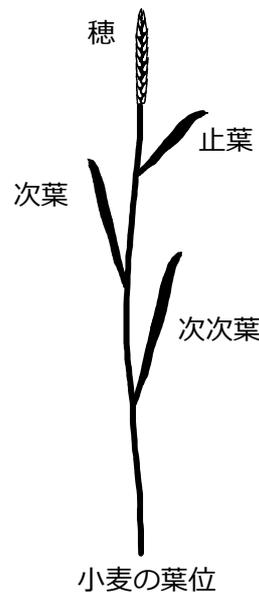
防除技術（薬剤散布を2回）

散布時期

初回：次葉40～50%が完全抽出する時期～止葉期（この散布で次次葉にも効果あり）
2回目：開花始（赤かび病と同時防除）

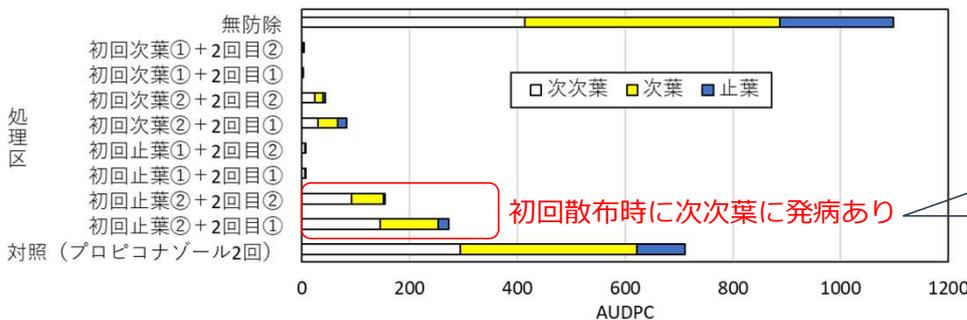
防除薬剤

初回：①インピルフルキサム水和剤F4000倍または②フルキサピロキサド水和剤F2000倍
2回目：①キャプタン・テブコナゾール水和剤500倍または②プロチオコナゾール水和剤F2000倍



小麦の葉位

甚発生条件でも2回防除で高い効果が得られる



初回散布時に次次葉がすでに発病している場合は、フルキサピロキサド水和剤Fの使用は控え、インピルフルキサム水和剤Fを使用してください。

普及 Dissemination

- ・秋まき小麦の赤さび病の防除技術として活用します。
- ・赤かび病の1回目の防除と同時防除が可能です。
- ・「きたほなみ」以外の品種にも適用可能です。

連絡先 Contact

中央農業試験場
病虫部 病害虫グループ
0123-89-2291
central-agri@hro.or.jp